

4. 交通量増加による影響について

国道の混雑度の検証

現状の混雑度

増加車両の影響



地点24

0.32 0.34

調査地点	路線名	12時間交通量(台)	昼夜率	日交通量(台)	交通容量(台)	混雑度	車線数
24	B 国道337号	11,387	1.30	14,803	44,000	0.34	4
	C 花畔北10線	655	1.27	832	8,000	0.10	2
	D 国道337号	10,850	1.30	14,105	44,000	0.32	4

検証方法

- 1日に来店者が10,000人であり、乗用車1台に2名乗車で来店した場合は、1日当たり5,000台車両が増加する
- 検証は、この5,000台が国道337号交通量として加算された場合の混雑度により影響を判断する

計算方法

- 増加する5,000台は、営業時間内(12時間交通量)に増加するとし、道路の交通容量への影響から混雑度を算出し、検証する

調査地点	路線名	12時間交通量(台)	昼夜率	日交通量(台)	交通容量(台)	混雑度	車線数
24	B 国道337号	11,387	1.30	14,803	44,000	0.34	4
	(来店者増)	5,000					
	検証結果	16,387	1.30	21,303	44,000	0.48	4

検証結果

- 混雑度は0.34から0.48の増加で、大きな影響はない

※混雑度
道路の混み具合を表す数値で、1.0を超えると、その道路の自動車を通り得る容量を超えたことを意味し、混雑が発生する可能性が生じてくる。